

男女共同参画社会に関する職員意識調査(まとめ)

この調査は、豊明市職員の男女共同参画社会に関する意識と現状について把握し、今後の事業推進及びプラン改定の資料とするため、平成17年1月7日～19日に実施したものです。

問1～3 年令、性別、職階	合計		
	男	女	計
回答数504件中、性別未記入データ7件を除く497件を対象	248 人	249 人	497 人

問4 男女共同参画社会の言葉の認知度	合計		
	男	女	計
1 理解している	46.0%	31.7%	38.8%
2 聞いたことがある	47.6%	53.4%	50.5%
3 知らなかった	4.8%	12.0%	8.5%
未回答	1.6%	2.8%	2.2%

平成9年9月30日実施：生涯学習と男女共同参画社会に関する市民意識調査報告書との比較分析

区分		知っている	聞いたことがある	知らない(未回答)	区分	知っている	聞いたことがある	知らない(未回答)	
全体	H09	14.2%	18.8%	67.0%		～30才代	H09	8.1%	14.8%
	H16	38.8%	50.5%	10.7%	H16		33.9%	56.8%	9.3%
男性	H09	17.9%	21.2%	60.9%	40才代～	H09	18.6%	21.8%	59.7%
	H16	46.0%	47.6%	6.5%		H16	42.3%	46.7%	11.0%
女性	H09	10.8%	16.6%	72.6%					
	H16	31.7%	53.4%	14.9%					

問5 次の言葉の意味の認知度	合計		
	男	女	計
1 ジェンダー	14.9%	16.4%	15.7%
2 エンパワーメント	7.2%	5.0%	6.1%
3 性同一性障害	37.7%	38.7%	38.2%
4 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	1.4%	2.2%	1.8%
5 ドメスティック・バイオレンス	37.0%	37.6%	37.3%
未回答(又は一つも知らない)	1.9%	0.2%	1.0%

問6 特に問題があると思うもの(3つ)	合計		
	男	女	計
1 共働き家庭においても、女性に家事、育児の負担がかかっている。	22.1%	26.2%	23.9%
2 女性は、結婚や出産のため仕事と家事の両立ができなくなる。	12.9%	10.7%	12.4%
3 高齢者の介護が、女性の負担になっている。	19.2%	24.1%	21.3%
4 家庭において、男の子と女の子は育て方に違いがある。	2.6%	2.2%	2.5%
5 女の子の進路と男の子の進路は、違うという考え方がある。	3.3%	3.5%	3.4%
6 男は仕事、女は家庭という考え方をする。	9.9%	9.7%	10.0%
7 職場において、お茶だしなどを女性がすることが多い。	5.7%	4.6%	5.4%
8 同じように実力があっても女性は管理職になりにくい。	9.3%	9.1%	9.4%
9 地域の自治会などにおいて、男性が会長などにつく場合が多い。	6.2%	3.2%	5.3%
10 市が策定する計画づくりの委員会などに、女性の委員が少ない。	5.5%	4.5%	5.2%
11 その他	1.2%	1.0%	1.1%
未回答	2.1%	1.3%	1.9%

その他（自由記述）

- ・女性は女に甘んじる考えがある。
- ・仕事に対してのやる気があるかどうか。
- ・女性自身の意識改革が必要（責任が伴う事柄から逃げない）
- ・社会の大きな変化が不可欠 したくても出来ない状況がたくさんある。
- ・女性が妊娠、出産を安心してできない社会、産休育休をとっても、社会復帰が保障されていない社会。
- ・若い世代では、家庭内の男女の差別・意識が変化してきており、時間と共に浸透していくものと思うが、高齢者の世代では依然として変わらないように思う。社会では、企業の継続を左右するような状況下では難しいところがあるのではないか。
- ・国政が悪い
- ・首長・議員に女性が少ない。
- ・人材の育成過程でも、割り当てられる仕事内容とか、職場での経験の積みせ方も性差による差を生じさせないようにすべきだと思う。
- ・女性というだけで区別される。
- ・どの項目も特に問題ないと思う。
- ・男女へだてなく育てるとますます出産率が減り、人口が減っていくと思います。子供を産めるという特権を生かした幼少からの教育こそ重要だと思います。だからジェンダーを少なくするのは問題です。
- ・男は上、女は下と言う考えが多い世の中。

平成9年9月30日実施：生涯学習と男女共同参画社会に関する市民意識調査報告書との比較分析

全 体	H09	H16
1 共働き家庭においても、女性に家事、育児の負担がかかっている。	69.2%	97.2%
2 女性は、結婚や出産のため仕事と家事の両立ができなくなる。	47.2%	50.3%
3 高齢者の介護が、女性の負担になっている。	65.9%	86.5%
4 家庭において、男の子と女の子は育て方に違いがある。	11.8%	10.3%
5 女の子の進路と男の子の進路は、違うという考え方がある。	16.9%	13.9%
6 男は仕事、女は家庭という考え方をする。	33.6%	40.8%
7 職場において、お茶だしなどを女性がすることが多い。	28.3%	22.1%
8 同じように実力があっても女性は管理職になりにくい。	40.0%	38.2%
9 地域の自治会などにおいて、男性が会長などにつく場合が多い。	26.4%	21.5%
10 市が策定する計画づくりの委員会などに、女性の委員が少ない。	24.7%	21.3%
11 その他	2.1%	4.6%

問7 男女共同参画社会を実現するために必要な改善	合計		
	男	女	計
1 家庭、職場、地域の男女不平等を改善する。	35.4%	41.2%	37.3%
2 男性と女性が、社会の中で果す役割が違うと思う意識を改善する。	29.2%	24.0%	27.5%
3 女性が自治体等の政策決定にもっと関わっていけるよう改善する。	15.5%	16.0%	15.6%
4 報道等による男女の固定的役割の意識づけをなくすよう改善する。	11.4%	11.6%	11.5%
5 その他	2.1%	1.6%	2.0%
未回答	6.4%	5.6%	6.1%

その他（自由記述）

- ・少子化を止めるためにも、女性の特性を尊重した雇用制度に改善。
- ・昇進等において客観的な基準等が公表されることがないので、適正な判断をされていると思うが自分の思いとは異なるため。
- ・議席に男女ワクを設ける。
- ・共同で社会に参画すべきだが役割は異なる。
- ・女性の地位引き上げという側面だけでは方手落ち。「男はつらいよ」の部分も知っていただく。
- ・性別ではなく、個人を見る意識改革では？男女平等といっても、肉体面では違いがあるので…。
- ・改善の必要はないと思う。

- ・差別と区別の理解をすべき。

平成9年9月30日実施：生涯学習と男女共同参画社会に関する市民意識調査報告書との比較分析

全 体	H09	H16
1 家庭、職場、地域の男女不平等を改善する。	49.7%	57.5%
2 男性と女性が、社会の中で果す役割が違うと思う意識を改善する。	50.5%	42.5%
3 女性が自治体等の政策決定にもっと関わっていけるよう改善する。	25.6%	24.1%
4 報道等による男女の固定的役割の意識づけをなくすよう改善する。	16.6%	17.7%
5 その他	3.8%	3.0%

問8 職場における男女差別の問題	合計		
	男	女	計
1 募集や採用	18.3%	21.6%	19.4%
2 事務分担（例：予算編成、庶務事務など）	26.6%	17.4%	23.5%
3 人事面（例：昇進、昇級、研修など）	18.3%	21.6%	19.4%
4 職場環境（例：掃除、お茶入れなど）	23.9%	27.8%	25.2%
5 その他	4.8%	3.7%	4.4%
未回答	8.3%	7.9%	8.2%

その他（自由記述）

- ・仕事に対する個人の自覚
- ・差はない。女性自身が現状に満足している方が多い。
- ・本人の意識しだい。
- ・女性自身の考え方を変えなければならない。消極的になる環境に問題がある。
- ・男女差別、不平等な対応をしている者がいることが問題であると思う。
- ・建設関係の職場に女性が少ない。
- ・差別はない。女の方がつよい！
- ・力仕事
- ・服装。男のみネクタイのギム有。
- ・特に思い当たらない。
- ・保育士が全員女性なので男女差別はあまり感じられない。
- ・家庭における役割。
- ・職員の意識が土台にあるので、そこが一番問題だと思えます。
- ・特に差別があるとは思わない。
- ・職場に男性がいない。
- ・職場に男性0。

問9 女性と男性の仕事の能力差		合計		
		男	女	計
・仕事に対する意欲・責任	男性が上位（A）	12.4%	3.3%	9.2%
	女性が上位（B）	0.9%	0.8%	0.9%
	差はない（C）	82.7%	92.5%	86.2%
	わからない（D）	4.0%	3.3%	3.8%
・企画、立案能力	男性が上位（A）	13.5%	13.2%	13.4%
	女性が上位（B）	3.3%	2.7%	3.1%
	差はない（C）	78.0%	80.9%	79.0%
	わからない（D）	5.2%	3.2%	4.5%
・交渉、折衝能力	男性が上位（A）	33.9%	32.8%	33.5%
	女性が上位（B）	3.8%	2.9%	3.5%
	差はない（C）	54.9%	57.3%	55.7%
	わからない（D）	7.4%	7.1%	7.3%

・ 協調性	男性が上位 (A)	6.4%	2.9%	5.2%
	女性が上位 (B)	19.6%	28.9%	22.9%
	差はない (C)	68.3%	64.9%	67.1%
	わからない (D)	5.7%	3.3%	4.9%
・ サービス意識	男性が上位 (A)	3.2%	2.5%	2.9%
	女性が上位 (B)	26.6%	27.7%	27.0%
	差はない (C)	65.5%	66.9%	66.0%
	わからない (D)	4.7%	2.9%	4.1%
・ 統制力	男性が上位 (A)	40.3%	33.3%	37.8%
	女性が上位 (B)	2.3%	2.5%	2.4%
	差はない (C)	51.3%	57.4%	53.4%
	わからない (D)	6.2%	6.8%	6.4%
・ 決断力	男性が上位 (A)	38.7%	28.5%	35.1%
	女性が上位 (B)	3.2%	4.5%	3.6%
	差はない (C)	53.2%	62.4%	56.4%
	わからない (D)	5.0%	4.5%	4.8%
・ 正確性	男性が上位 (A)	3.4%	2.1%	2.9%
	女性が上位 (B)	14.8%	12.8%	14.1%
	差はない (C)	76.4%	80.7%	77.9%
	わからない (D)	5.5%	4.5%	5.1%
未回答				

問10 男女共同参画社会の推進のため、豊明市が取り組むべき重要事項 (3つ)	合計		
	男	女	計
1 学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える。	10.0%	10.3%	10.1%
2 家庭において、男女平等を基本とした育て方をするよう啓発を進める。	6.7%	5.6%	6.3%
3 夫婦が対等な立場で話し合うような家庭作りをするよう啓発を進める。	5.4%	5.8%	5.5%
4 女性の抱えている社会問題に関する講座やシンポジウムなどを開催する。	8.8%	10.2%	9.2%
5 地域活動や公民館活動に男性も参加できるプログラムを充実させる。	6.1%	6.2%	6.1%
6 女性も男性も、気軽に利用できる活動の場を整備する。	12.4%	10.2%	11.6%
7 育児、介護などに対する女性の負担を軽減するような施策などを充実させる。	19.3%	21.8%	20.1%
8 子どもをもつ女性が安心して働けるように支援する施策を考える。	15.7%	17.1%	16.2%
9 地域組織の役員に、もっと女性がつくように働きかける。	4.0%	2.1%	3.4%
10 女性グループの自主活動を支援する。	2.1%	1.4%	1.8%
11 市が策定する計画づくりの委員会などに、もっと女性を採用する。	7.0%	7.1%	7.1%
12 その他	0.9%	0.6%	0.8%
未回答	1.8%	1.7%	1.7%

その他 (自由記述)

・いき過ぎたジェンダーフリーには歯止めをかける。教育にジェンダーフリーは不要だ。男女平等とジェンダーフリーを明確に区別する。

・人・環境・経済等の社会を構成する様々な要因の組み合わせにより状況が変わると思われ、できるものならば個人の意識を変える(共同参画の本質を理解する)ことから始めることが望ましいと思う。

- ・男女が互いに理解しあい、尊重しあう教育をするよう啓発する。
- ・子育てを終えた女性が社会に復帰できる仕組み作り。
- ・当然性差があるので、それを前提とした教育を行うべきだ。
- ・議員定数を男女で半々にする。
- ・子どもの頃から自分の意見や考えがもてるような教育が必要では、男女という差なし、自己肯定感も必要。
- ・女性の人事面での登用を増やす。
- ・男性を教育する。
- ・一人ひとりの意識の改善。

・市役所の中の男女区別を徹底する。

平成9年9月30日実施：生涯学習と男女共同参画社会に関する市民意識調査報告書との比較分析

全 体	H09	H16
1 学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える。	38.8%	40.0%
2 家庭において、男女平等を基本とした育て方をするよう啓発を進める。	32.7%	24.9%
3 夫婦が対等な立場で話し合うような家庭作りをするよう啓発を進める。	38.0%	21.7%
4 女性の抱えている社会問題に関する講座やシンポジウムなどを開催する。	24.0%	36.6%
5 地域活動や公民館活動に男性も参加できるプログラムを充実させる。	28.0%	24.3%
6 女性も男性も、気軽に利用できる活動の場を整備する。	50.8%	46.1%
7 育児、介護などに対する女性の負担を軽減するような施策などを充実させる。	55.9%	79.7%
8 子どもをもつ女性が安心して働けるように支援する施策を考える。	49.5%	64.0%
9 地域組織の役員に、もっと女性がつくように働きかける。	16.0%	13.3%
10 女性グループの自主活動を支援する。	9.7%	7.2%
11 市が策定する計画づくりの委員会などに、もっと女性を採用する。	24.5%	28.0%
12 その他	1.9%	3.2%

問11 「とよあけ男女共同参画プラン」の認知度。	合計		
	男	女	計
1 プランの詳細について詳しく知っている。	1.1%	1.0%	1.1%
2 プランの概略と自己の所属する課等の役割程度までは知っている。	5.5%	3.9%	5.0%
3 プランの概略程度は知っている。	20.0%	15.5%	18.6%
4 プランが存在していることは知っている。	52.0%	52.2%	52.0%
5 プランがあることを知らなかった。	18.5%	25.1%	20.6%
未回答	2.9%	2.4%	2.7%

問12 豊明市で開催された次の男女共同参画事業の認知（すべて）	合計		
	男	女	計
1 平成14年度男女共同参画講演会 「利家とまつ 戦国時代からの男女共同参画」	6.8%	6.3%	6.6%
2 平成14年度男女共同参画フォーラム 「これからの豊明に求められる女性人材の育成」	4.4%	3.9%	4.2%
3 平成14年度女性向講座 「女性リーダー養成講座」「女性人材育成講座」	4.7%	4.2%	4.5%
4 平成15年度男女共同参画イベント 「～スーパー母娘のキラキラ人生術～」	3.0%	2.6%	2.9%
5 平成15年度男女共同参画推進事業意見交換会	1.5%	1.3%	1.4%
6 平成15年度男女共同参画推進モデル事業（主催：愛知県）「次世代に手わたそう男女共同参画 女と男の未来を考える高校生集会inあいち」	4.2%	4.2%	4.2%
7 平成15年度女性向講座「女性リーダー養成講座（前期：グループ活動を考えよう 後期：スキルアップトレーニング）」「女性のためのフリープログラム」	3.9%	3.4%	3.7%
8 豊明市男女共同参画啓発紙「シェイクハンド」の発行	3.0%	2.9%	3.0%
9 平成16年度男女共同参画イベント「働くこと 育てること」	4.8%	5.5%	5.1%
10 平成16年度男女共同参画講座「女性のためのフリープログラム」「子育てサポーターになろう」「簡単“手こね”パンづくり～パパのパン工房～」	14.7%	18.3%	16.0%
11 特別講演会 「おれおれ詐欺にだまされないで！」	17.1%	16.8%	17.0%

未回答	31.9%	30.6%	31.4%
-----	-------	-------	-------

問13 男女共同参画の推進等について、ご意見・ご感想等があればご記入ください。	合計		
	男	女	計
記載あり	16.1%	5.2%	10.7%

記載内容

・以前は男尊女卑的な考え方があったと思うが、最近ではそのような意識は薄れ、社会、職場は平等対応の方向に変わってきていると思う。しかしながら、50代以上の人はまだ男女平等の意識が低いと思うので、中高年の意識改革に力を入れたらと思う。これはあくまで個人的意見であることを申し添えます。

・男女共同参画は本来男女平等実現のために推進するものだと思うが、行政に携わるものとしては女性の社会参加が金（財源）になるという視点ももっておくべきだと思う。つまり、女性の社会参加への条件整備（育児、介護支援など）は、単なる捨て金ではなく財源確保のための投資にもなることを念頭に、広い視野で考えた方がよい。当市はこれが欠けている。

・一つの切り口として、ジェンダーフリー論者がいう「育児の社会化」は（保育サービスの充実）少子化対策にはなっていない。保育サービスの充実が国を滅ぼすという意見さえある。乳児期には母性が必要不可欠であると先進諸国が教示しているのに先述のGF論者は母性をかたくなに否定している。今こそ方針転換して「保育サービスの充実」よりも「家庭育児」に巨費を投じて“親の子育てを支援する”施策に打つべし。男女共同参画社会は経済優先論ではなく、幸福論で貫かなければいけない。（保育園児には公費が数十万円/1人、家庭育児にも補助する。）

・男女平等に扱おうとしても、女性の方が重要なこと、重責を拒否している。矛盾している。

・職場で、男性向き、女性向きの職務はあっても良いと思う。ただその職務でも、他の性の者がやりたい場合に十分応えれるだけの環境をおかねばならないが。

・元々は男女平等であっても社会の流れが差別があったため、これからは、改善されていくと思います。

・女性参画がPRされる様になって久しいが、自分の周りでは未だ変わったという意識や環境の変化はほとんど感じない。

・社会保障、労働政策に変化がない限り、なかなか理想に近づけぬのではないか。

・女性が発揮（意見を述べることができる場）できる環境を作って、もっと姿勢に反映できるようになるとよい。女性の活動が行政の中でわかるようになるとうい。

・意識の改革は一朝一夕にしてなるものではなく、長い時間を要して社会へ吸収されていくように思い、その芽は少しずつ育ってきているように感じられるので、今後も確実に衰退することなく啓発、啓蒙等の事業を展開して行って下さい。

・誤解が多い分野なので一刻も早い周知が必要である。

・男女に性差があるのは当然であり肉体的な差があるのはあたりまえである。互いの「差」を理解しあい、協働していくことが男女共同参画ではないかと思う。

・“表面上の平等”と“実質的な平等”とは異なるものである。差異が存しても許されるものとそうでないものとの見極めを社会全体がした上で、男女共同参画に向けて取り組むことができるような環境整備をお願いしたい。

・問12の設問では事業名はほとんど知っているが、内容については何もわかりません。「職員でもわからないものが、市民に理解されているか？」と思います。

・男は男、女は女という特性を共同参画で常に平等だということを取り違えている者が多い。

・差別はないが違いがあるので、そのことにも意識を払って行くべきである。

・個々の能力を評価できない（組織や制度が）と、学歴・性別・試験などに頼ってしまう。それが当然のように評価の観点になってしまっている。まずは人を見る目のないものが他者の能力を評価するという愚行をなくすことから始めないと、男女の問題はほど遠い感じである。

・男女共同参画は、実は女性にも厳しい一面があるということ認識すべき。

・男女の差というよりは個人の差が人材の登用。

・問9のA・B・・・選択に豊明の姿があらわれていると思う。まよわず男性を前に持ってきている点です。職員自身の意識改善はどうなっていますか。

・男性・女性と別々に講座を設けることよりも、男女決めつけることのない社会づくりに取り組んでもらいたい。男女が一緒に育児・家事講座はどうか。

- ・難しいけど、おじいちゃんたちに男女共同参画を理解させよう！
- ・仕事上においては、人事面において、もっと平等にすべきである。
社会通念上の意識啓発については、男女の区別は必要な時がある為、区別と差別の違いを明確にするための、意識づけは必要かと思う。
- ・人権に対する行政のアプローチとして、その切り口として男女共同参画をとらえるべきものと認識している。
- ・男女での差別はよくないが、身体的、生殖機能的に異なるものだから、区分すべき部分はあると思います。
仕事の能力は男女という面では差はないのでは...。要は人によるということ。もっとも、子どもの面倒を見なければならず、時間外勤務ができない等の要因はあるかもしれませんが。
- ・性差による能力差はなく、個々の人ごとによる差のみである。しかし体力に関しては厳然として存在する。また出産については男女の性差で最も大きなものである。
以上をふまえ、機会均等ならびに男女共同は必要だが、男女同一では決してないと思う。
- ・“男女平等”という言葉に対し、勘違いしている人が多いと思われます。正しく理解してもらえるように進めていけるのがよいと思います。
- ・最近「ジェンダー」という言葉を聞かれるとおり、社会や文化が作り上げた男女性差をなくそう。なくすためにはどうしたらよいということを経済等でも言われているが、無理やり男女の性差をなくすよりも、まずは個人の適正の発掘とそれにあつた方向で進めていくこと。それと、男女にはどうしてもそれぞれ持って生まれた時からある能力、適正などの性差もあると思うので、そこまでねじまげて共同参画ということはどうかと考えます。
- ・豊明市の男女共同参画事業にもっと関心を持ちたいと思います。
- ・意識の改革は時代背景等もあり、難しいことだと就職して思った。
- ・年齢が（世代）、「男女の性差を当たり前」と思う方々（特に男性）が男女共同参画について考えていくこと自体に無理があると思います。家事において子育てや家事について協力しない人達が男女平等に施策することができるのでしょうか？もっと若い女性の意見を十分に吸いあげていただくとよいのではないのでしょうか。
- ・自分のいる職場においては、男女共同参画というレベルにすら達していない。
- ・今までとは違い、女性にも負担と責任が大きくなっていくのかなと思うが、大切なことなので今後わかりやすく広報したり、進めていってほしいと思います。
- ・義務と権利は表裏一体と思う。権利だけの主張がたまに有る。
- ・女性に対する意識が低すぎるのが現状のような気がする。一歩ふみ込んだ話し合いではなく、行動が必要だ。たてまえはいらない。
- ・男女共同参画は非常に重要ですが、平等の意味を誤解するとますます子供を産む女性が少なくなります。子供を産んでも夫婦で安心して働けるよう、子供が成人になるまでに莫大なお金がかかる仕組みを改善すべきだと思います。教育の中で、子供を産むことができるのは女性だけなんだということは、もっと大切にしていってほしいと思います。
- ・育児・子育てする人に対して、もっとお金を使っても良いのでは...と思います。子育てしやすい環境にすることによって、若い世代の人口が増加し、自然に税収UPにつながると思います。また、女性が働ける環境をつくることによって、家庭全体の収入もUPし、裕福になるので、それだけ多くの税も入ってきます。女性の社会進出のためにコストをかけることも損ではないと思います。
- ・子育てや介護などで、働きたくても働けない（すでにあきらめている）女性はとても多いと思います。安心して家をあげられるシステムは、個人だけの努力ではどうにもならないことなので、行政指導で進めていってほしいと思います。
- ・なんでも男女平等にするのではなくて、お互いの長所・短所（男性もしくは女性の方が向いていること）というところを認めあつた上で、家庭でも、職場でも協力すべきだと思う。あまり平等を言いすぎて、女性でも夜勤や重労働をするようなことになったときに、それが効率的とか、向いているかどうかの考えを抜きにしてはいけないと思う。教育も男女いっしょの名簿とか、男の子も「さん」づけでよぶとか、そういうことはあまり意味がないと思う。自分たちが違和感を感じるほどに平等を主張しなくてもいいのでは...。
- ・男女の違いを意識すること自体は必要なことだと思います。違いを意識した上で、男も女もお互いに認め合つて、生きていける社会になるといい。
- ・意外と事業を知らないものなんだなあと思いました。もっと強いアピールが必要では？